



<イベント案内>

■朝鮮半島 南北分断の歴史・現状・未来

○開催日：2019年6月29日（土）15:00～17:00

○場所：コリアンブックカフェ「책자리（ちえっচার）」

○参加費：¥500(ドリンクバー利用料込)



今回のイベントは「そもそもどうして朝鮮半島が分断したのか?」、「朝鮮半島をめぐって、これまでも色々あったが、実際どうなのか?」、「今はどうなっているか知りたい。」ということ学ぶ企画を準備しました。これまで勉強会を企画したことがないスタッフと、専門でもないスタッフが自前で行う勉強会です。

2018年2月に開催された、平昌オリンピックを境に、朝鮮半島は急速に恒久平和の構築へ情勢が転回しました。4月27日に、2007年以来となる南北首脳会談が行われ、朝鮮半島の非核化や朝鮮戦争の終結、恒久的な平和構築を目指す板門店宣言が発表されました。また、6月12日には朝鮮戦争停戦以来初の朝米首脳会談が開催され、アメリカは朝鮮民主主義人民共和国（DPRK）に安全の保証を約束し、DPRKは朝鮮半島の非核化に向けた決意を表明しました。その後も南北・朝米首脳会談は行われたものの、朝米間の折り合いがつかず、以降、朝鮮半島の非核化及び朝鮮戦争の終結に向けた南北関係は膠着状態となっています。

どなたでも参加できますので、朝鮮戦争が始まった日（1950年6月25日）に近いこの日に、一緒に学びませんか？

■2019年若者たちのための済州4・3の旅報告会

○日時：2019年6月30日（日）15:00～21:00

報告会：15:00～17:00

打ち上げ：18:00～21:00

○場所：コリアンブックカフェ「책자리（ちえっচার）」

○参加費：2,000円(打ち上げまで参加の場合)



4月30日から5月3日にかけて行われた「2019年若者たちのための済州4・3の旅」について、参加したメンバーらがちえっচারに集まります。

旅の振り返りや評価、感想などを共有します。どなたでも参加できますので、条件や都合がつかず残念ながら参加できなかった方も、少しでも旅の醍醐味を体感できる機会ですので、ご参加ください。

＊旅に参加した人は感想文を事前を書いて持ってきてください。

<活動報告>

●若者たちのための済州 4・3 の旅(4/30-5/3)

済州 4・3 犠牲者慰霊祭実行委員会大阪をはじめ、現地済州島の 4・3 犠牲者遺族会や、事件の真相究明に取り組む市民団体らの主催で行われた企画です。

日本や在日コリアン青年ら、総勢 22 名が参加し、3 泊 4 日の期間、寝食を共にし、4・3 の歴史が残る地をフィールドワークしながら、たくさん学び、たくさん語り合ってきました。

フィールドワーク先は下記の通りでした。

日程	訪問先
1 日目 (4/30)	・北村ノブンスンイ 4・3 記念館 ・北村小学校
2 日目 (5/1)	・4・3 平和祈念公園 ・タランシオルム、タランシクル
3 日目 (5/2)	・アルトゥル飛行場 ・ソッサルオルム ・済州酒精工場跡 ・チョンバンポッポ
4 日目 (5/3)	・トリョンマル ・済州国際空港

1 日目に訪れた、北村（プッチョン）。ここは世界的にも前例がない大規模な民間人の虐殺が行われた地です。ここでは 1 日に 500 人の方が討伐隊や軍人たちに銃殺されたと言います。ノブンスンイにはその中で殺された赤ん坊を埋葬したお墓があります。

2 日目に訪れたタランシオルム、タランシクル。オルムとは済州の言葉で小さい丘を意味し、クルは洞窟を指します。4・3 当時、タランシクルに隠れていた住民らが討伐隊に見つかり、集団虐殺されてしまうという悲しい歴史があります。

3 日目に訪れたアルトゥル飛行場。日中戦争の爆撃機の起点となった地です。ここの周辺の土地一帯は今も国防部の所有です。予備検束で捕まった多くの人が集団虐殺された現場で、ぽっかり空いた溝が遺体の捨てられたところとして今もそのまま残っています。

4 日目の最後に訪れた済州国際空港。拡張工事の時に、遺骨が発見され、その事実を隠すため夜中に工事区域外に移動させていることが周辺住民の証言

から後になって判明したという話を聞きました。

4 日間、訪問した地の多くには慰霊碑が立てられていました。私たちは各地の慰霊碑に手を合わせ、黙とう捧げました。その地で学んだ悲劇を想像し、犠牲者の冥福を祈りました。祈りを通じて済州 4・3 という悲惨な歴史と自分が繋がり、決して忘れないという思いを強くすることができました。

フィールドワークの他にも、びっくりするほどきれいな海を見に行ったり、美術館に行ったり等、観光も思う存分楽しみました。



見晴らしの良い丘、流れる滝や海岸という素敵な景色すべてが 71 年前に起こった 4・3 事件の虐殺の現場でした。そう思うと、世界的に見てもとても悲惨な経緯をたどった島であると言えるでしょう。しかしその事実が知れ渡り、向き合う取り組みが進んだのはここ 20 年に満たない期間です。その間に島民の方々は口を閉ざされ、仕事も自由に選べない、経済活動も制限される人生を送らざるを得ませんでした。

今、コリアタウンなど生野区にいる人の多くが済州島から来た方々です。彼ら・彼女らがどうして日本へやってきたのか、遠くの島の出来事でなく、今大阪にある出来事として済州島 4・3 事件について今後も学びたいと思いました。

KEY 大阪通信（瓦版）掲載記事大募集！！

月 1 回のペースで発刊。月の活動報告や紹介をメインに掲載しますが、それ以外にもみんなと共有したい記事があれば、遠慮なくお寄せください。

発行：KEY 大阪